

大寶積經卷第九十優波離會第二十四

大唐三藏菩提流志奉詔譯

應自稱云我某甲 歸依師 歸依佛 歸依法 歸依僧 南無釋迦牟尼
 佛 南無金剛不壞佛 南無寶光佛 南無龍尊王佛 南無精進軍佛
 南無精進喜佛 南無寶火佛 南無寶月光佛 南無現無愚佛 南無
 寶月佛 南無無垢佛 南無離垢佛 南無勇施佛 南無清淨佛 南無
 清淨施佛 南無娑留那佛 南無水天佛 南無堅德佛 南無梅檀功
 德佛 南無無量掬光佛 南無光德佛 南無無憂德佛 南無那羅延
 佛 南無功德花佛 南無蓮花光遊戲神通佛 南無財功德佛 南無
 德念佛 南無善名稱功德佛 南無紅炎帝幢王佛 南無善遊涉功德
 佛 南無鬪戰勝佛 南無善遊步佛 南無周匝莊嚴功德佛 南無寶
 花遊步佛 南無寶蓮花善住娑羅樹王佛 如是等一切世界諸佛世
 尊常住在世 是諸世尊當慈念我 若我此生 若我前生 從無始生
 死已來 所作衆罪 若自作 若教他 作見作隨喜 若塔若僧 若四方僧
 物 若自取 若教他 取見取隨喜 五無間罪 若自作 若教他 作見作隨
 喜 十不善道 若自作 若教他 作見作隨喜 所作罪障 或有覆藏 或
 不覆藏 應墮地獄 餓鬼 畜生 諸餘惡趣 邊地下賤 及蔑房車 如是等
 處 所作罪障 今皆懺悔 今諸佛世尊 當證知我 當憶念我 我復於諸
 佛世尊 前作如是言 若我此生 若於餘生 曾行布施 或守淨戒 乃
 至施與畜生 一搏之食 或修淨行 所有善根 成就衆生 所有善根 修
 行 菩提 所有善根 及無上智 所有善根 一切合集 校計 籌量 皆悉迴
 向阿耨多羅三藐三菩提 如過去未來 現在 諸佛 所作迴向 我亦如
 是 迴向 衆罪 皆懺悔 諸福 盡隨喜 及請佛功德 願成無上智 去來
 現在 佛於衆生 最勝 無量功德 海我今歸命禮

金剛薩埵念誦法

三宝に私は帰依せん。一切有情を私は解脱させ、菩提の境地へ導くため、菩提心を正しく起こさん。

自らの頭頂に *paṇ* より蓮華が生起し、*ṃ* より月輪が生起する。その上方に、*hūm* より白き五鉗杵が生起する。五鉗杵の臍は *hūm* で荘嚴され、そこから光明が放たれ、収斂した後に完きものとなる。

そこから金剛薩埵が生起する。御身は白く、一面二臂、金剛杵と金剛鈴を手にしている。明妃ヴァジラトローバは御身は白く、二面二臂、カルタリ（剪刀）とカパーラ（鬪鉢杯）をもつて抱かれている。二人は正絹の衣と様々な宝飾で荘嚴され、父尊は結跏趺坐され、その心臓部の月輪の上に *hūm* の白い文字がある。そこから光明が放たれて、自らと等しき智薩埵を勧請し、不二となる。

再び心臓部の *hūm* より灌頂の諸天を勧請し、一切如来たちがここに灌頂を与えられんことを祈願する。彼らは智慧の甘露に満ちた瓶を手にして語る。

"om sarvatathāgata abhiseketa samaya śrīye hūm"

このように灌頂し、御身は智慧の甘露に充たされ、阿闍が頭頂を荘嚴する。

世尊金剛薩埵よ、私と一切有情が為してきた罪障や三昧耶の墮落、破戒、これらのすべてを、浄化し清浄なものと為し給え。

このような祈願によつて、心臓部の *hūm* から光明が放たれ、一切有情の罪障は浄化される。諸仏諸菩薩に歓喜し供養し奉る。彼らの一切の功德が光明の形で集まり、心臓部の *hūm* へと溶け込んでゆく。それにより威嚴と勢力は円満となる。

"om vajrasatva samayan anupālāya. vajrasatva tvenopatiṣṭa. dṛḍho me bhava. sutosyo me bhava. suposyo me bhava. anurakto me bhava. sarvasiddhim me prayaccha. sarvakarmasu ca me citraṁ śrīyaṁ kuru. hūm ha ha ha ha hoh. bhagavasaratathāgata vajra mā me nuṁca. vajrī bhava mahā-samayasatva āh. hūm phat."

私は無知蒙昧で三昧耶に違犯し墮落した。師主よ、どうか救い給え。頭領にして金剛を持てる方、大悲を本性とする衆生の主に私は帰依する。

金剛薩埵は「善男子よ。汝の罪障と三昧耶の墮罪と破戒のすべてを浄化し、清浄とした。」と説かれた後、自らに溶け込み、自らの三門と金剛薩埵の身口意は無差別になる。

